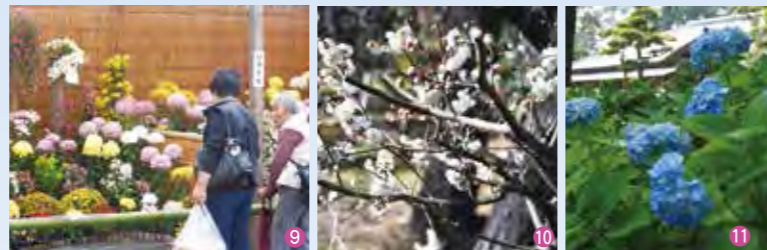




都市公園となつて46年が経過した今、沼津御用邸記念公園は市民の皆さんに親しまれ、「ぬまつ」の宝も選にも選ばれています。

公園の活用には、自然景観とおもてなしの心を大切に、開園以来毎年開催されている「菊華展」のほか、「歌会始め」「ぬまつ茶会」「松籟の夏」「観梅茶席」、桃の節句や端午の節句にちなんだ催しなど、日本文化の継承を素地として市の魅力をアピールするイベントが開催され、これまで多くの方々が来場者でにぎわってきまし。また、広く一般に貸し出しされている東附属邸は、市内の茶道団体などによる文化・教養活動を行う拠点として定期的な利用がされています。

景観美とおもてなしの心を大切に した公園活用



写真解説①2雅楽演奏や着物姿の高校生ガイドが活躍「松籟の夏」(11月)③4「GWイベント」(5月)恒例の沼津西高生の書道パフォーマンスと⑤飛龍高生による飛龍太鼓演奏⑥市内7流派が野点を設ける「ぬまつ茶会」(5月)⑦西附属邸で展示の端午の節句(5月)と⑧ひな祭り(3月)⑨豪華絢爛な菊の美しさを競う「菊華展」(11月)⑩品種約140本の梅が見頃(2月)⑪園内に咲き誇るあじさい(6月)

新たな歴史が始まる 公園への期待

市ではこれまで、皇室の別荘であった旧御用邸を活用した都市公園の視点で維持管理にあたってきましたが、今後、国指定名勝という新たな価値付けが加わることから公園管理や活用のあり方について検討を行っていきます。国民的な文化資産としての価値を称えるための活用はもちろんなこと、市民の皆さんの文化・教養を高めるための活用、公園として皆さんが憩う場としての活用市の魅力を創出・アピールする場としての活用、そして観光資源としての活用を試み、更なる展開をしていく予定です。

沼津を象徴する自然景観を有し、訪れる人々を皇室文化に誘う沼津御用邸記念公園。歴史ロマン漂う高貴な香りに包まれたその雰囲気は、皇室と沼津を結ぶ絆の深さを感じさせてくれます。皆さんに知的な刺激を与え、文化・教養の創造を駆り立ててくれる、このわがまちの名勝「沼津御用邸記念公園」をこれからも共に愛していきましょう。



西附属邸は、謁見所などの公的な部分と御座所などの居住部分を組み合わせた大規模な建築物として全国的にも貴重な例であり、住宅史においても意義の高いものとされています。

当時の面影が偲ばれる 御用邸の遺構

沼津御用邸の本邸は、昭和20年7月の沼津大空襲で焼失しています。しかしながら、川村純義伯爵の別荘を転用拡充し、皇居(当時は宮城)の賢所(仮便殿)を移築増築した西附属邸や東宮大夫官舎を赤坂離宮から移築した東附属邸は、共に残る邸舎や倉庫などの附属建物と併せて御用邸の遺構として大変重要なものとなっています。建物自体は決して華美ではないものの、まとも現存していることが高く評価されています。

また、西附属邸内には家具や照明器具、じゅうたん、飾棚などの調度品も展示されており、かつての建物の使われ方に思いを馳せ、その生活ぶりを伺い知ることが出来ます。訪れる人々に明治期の皇室文化の一端を語りかけてくれる貴重な文化財として今後も生き続けているのです。

国指定名勝を機に 展示リニューアルを検討

西附属邸は、今から20年程前に大規模改修を行い、見学施設となつて以降、現在に至るまで変わらぬ展示

「西附属邸展示改修計画に関する懇話会」座長



浅羽 英男 さん (建築家)

国指定名勝は、沼津市が旧御用邸を引き継ぎ、記念公園として市民の皆様と共に優れた環境を大切に保全・管理されてきた賜物であり、皇室ゆかりの地にふさわしいご慶事と心よりお祝い申し上げます。

私はこの度、西附属邸の展示リニューアルに際し開催されました懇話会の座長を仰せつかりました。観覧者の皆様が皇室文化を身近に感じ、また新しい発見

や知識に一層の喜びが得られますよう、展示手法や企画の工夫についてご提案させて頂きます。これまでの皇室建築の良好な保存・活用に感謝しつつ、文化財の歴史や価値について新しい話題も交え、有意義な意見交換を進めてまいります。

最後に、沼津市は豊かな自然環境と温暖な気候に恵まれた日本の中でも最高クラスの立地を誇る魅力的な都市です。このことが心豊かな沼津人を育てたのでしよう。今後の更なる沼津市の発展を応援しますと共に、皇室と市民の皆様がより親しく結ばれていかれますことを願っております。

方法をとってまいりました。このような中で、今回の国指定名勝という機会に展示リニューアルを計画し、より多くの観覧者呼び込みとと考えています。展示更新にあたっては、史実に基づき、観覧者が楽しみながら、わかりやすく当時の様子やその使われ方に理解が深められるよう、観覧順路の見直しや解説手法の工夫などあらゆる観点から検討して、見慣れた展示イメージの刷新を目指していきます。今後は、民間の知恵やアイデアを活用すると共に、広く専門的な意見を取り入れるために懇話会も設置して計画を進めていきます。

浅羽英男さん…宮内庁を退職後、これまでの皇室建築における修復・復元の実務経験から皇室建築史を研究。沼津御用邸記念公園の施設案内説明資料なども手掛ける。また、平成25・26年度の燦々ぬまつ大使を務めた。